

か き

【令和7年1月1日現在の農薬登録内容】2025版

※ 太枠は重要防除になります。

月(時期)	対象病害虫	区分	使用農薬(倍率)
12月～3月	注)越冬病害虫、樹幹害虫はこの時期に、耕種的防除(落葉、枝など園外廃棄、樹体の分岐部の粗皮削り等)を行うと防除効果が高いので必ず行う。		
3月～4月	スカシバ類		フェニックスフロアブル 200倍 (開花期までに樹幹部及び主枝に散布)
	注)粗皮を剥いで処理すると、より効果的である。		
4月下旬 ～ 5月上旬	カイガラムシ類・アザミウマ類	劇	モスピラン顆粒水溶剤 4000倍
	落葉病		エムダイファー水和剤 650倍
5月下旬 ～ 6月上旬	カキノヘタムシガ・ハマキムシ類・ケムシ類		フェニックスフロアブル 4000倍
	落葉病・うどんこ病・炭疽病		スコア顆粒水和剤 3000倍
	注)カキノヘタムシガ第一世代幼虫の防除適期は富有の開花盛期(開花率80%)から10日後である。		
7月上旬 ～ 7月中旬	イラガ類・カメムシ類 フジコナカイガラムシ		スミチオン水和剤40 1000倍
	うどんこ病・落葉病・炭疽病		ストロビードライフフロアブル 3000倍
8月上旬	カキノヘタムシガ・カメムシ類・コナカイガラムシ類		ダントツ水溶剤 4000倍又は スタークル顆粒水溶剤 2000倍
	うどんこ病・炭疽病		トップジンM水和剤 1500倍
8月下旬 (うどんこ病 多発園)	うどんこ病		トリフミン水和剤 3000倍
9月上旬 ～ 9月中旬	カメムシ類		スタークル顆粒水溶剤 2000倍
	うどんこ病・炭疽病		スコア顆粒水和剤 3000倍
	注)台風など強風、多雨があった場合には速やかに防除する。		

○重要 カメムシ類の防除

カメムシは、7月から10月にかけて気温が高い夜間に果樹園に飛来する。
 加害時期は越冬密度、ヒノキの毬果、夏季の夜温により異なる。圃場を見回し加害を発見した時は、下表の薬剤で圃場全体を防除する。
 (早生種では、加害時期と収穫時期が重なる。収穫前日数には十分注意する。)

使用時期	薬 剤 名 (希釈倍率)	区分
収穫前日まで	モスピラン顆粒水溶剤 (4000倍)	劇
収穫3日前まで	アクタラ顆粒水溶剤 (2000倍)	
収穫3日前まで	テルスターフロアブル (3000倍)	劇

○落葉病、うどんこ病対策

落葉病、うどんこ病は、秋に気温が下がると発病する。発病が著しい場合、早期落葉を起こす。
 防除時期は初夏(5月中旬～7月中旬)。
 冬季に落葉の園外廃棄を行う。

「農薬の使用は、使用基準を確認し、周りの他作物に農薬が飛散しないようにすること」